

【伊藤総領事メッセージ 2018年7月】

トロントでは年間に50以上の映画祭が行われていると言われ、なかでも毎年9月に開催されるトロント国際映画祭は世界的にも有名ですが、トロントの日系文化会館（JCCC）では2012年からトロント日本映画祭（TJFF）が毎年開催されています。第7回となる今年は6月7日を皮切りに、28日までの3週間の間に27本の映画が上映され、のべ1万人以上が来場し、北米ではニューヨークと並ぶ最大規模の日本映画祭となっています。今回、私も初めてTJFFの観客に加わりましたが、ドキュメンタリーからコメディ、サスペンス、アニメ、歴史大作など様々なジャンルの作品が並び、多い時には500名を超える観客が集まる盛況ぶりには本当に驚かされました。全ての作品を鑑賞することはとても出来ませんでしたが、私が見た映画はいずれも、日本の文化や歴史、日本人の考え方などの日本の魅力を伝える上で優れた内容であり、また、映



像、音楽、キャスティングなど、映画作品としても優れた作品だったと思います。さらに今年のTJFFには毎週一人の割合で日本から映画監督や映画の出演者がトロントに来訪し観客との質疑応答を行うなど、映画祭としても充実したものでした。

あるJCCCのイベントで出会ったカナダ人の方は、「日本映画はハリウッド映画とは違う。その違いが素晴らしくて、私は日本映画が好きだ。」と私に話してくれました。たとえば、吉田大八監督の「美しい星」という作品は三島由紀夫の同名小説に基づいていますが、地球規模で人類を脅かす脅威を原作にある核戦争から現代における気候変動に置き換えた内容となっています。



映画を見たカナダ人の観客からは、もっと広くこの映画をカナダで見せるべきだ、との意見も聞かれました。また日本でこの映画を初めて見て感動して以来、世界各地で行われるこの映画の上映を追いかけ、トロントで100回目の上映を迎えたという日本人の女性は、「世界の中でも、この映画がこれほど暖かく迎えられた場はなかった。ここに同席できて嬉しい」と述べていました。ちなみに、吉田監督と観客一同とが一緒に「火星人のポーズ」で写真を撮ったのも、非常に珍しいケースではないかと思えます。

また、1953年に制作された映画「ひろしま」は、原爆投下からわずか8年後に広島市民の全面的な協力を得て9万人ものエキストラを動員した作品で、被爆をされた、あるいは家族や友人などを原爆で亡くした経験を持ったうえで出演されたであろう多くの方々の心中は如何ばかりであったらうかと思うと、胸が痛くなりました。この映画の上映の前後には、自らも被爆者であり、ICANの代表として昨年のノーベル平和賞授賞式に出席したトロント市在住のセツコ・サ

一口ウさんが、核兵器の及ぼす恐ろしいほどの悲惨さと、核兵器のない世界への渴望を熱弁されました。

このTJFFは、数多くのスポンサーと日系文化会館メンバーのボランティアのおかげで可能となっているもので、映画上映の前に毎回、これらのスポンサーとボランティアへの感謝が司会者から述べられていました。このようなところにも、日本文化をカナダにいる人々に伝えようとするJCCC関係者およびTJFFサポーターの熱意とボランティア精神が現れ、非常に感激しました。スポンサーには、カナダに進出している日系企業のみならず、日系人により設立された財団やトロント市内の映画館や映画祭主催団体、日本アニメやマンガを愛好してイベントを実施する団体、日加協会やカナダ日本レストラン協会なども名を連ねており、トロントにおいてTJFFが多くのグループに注目され、期待されていることがわかります。過去のTJFFの成功の積み重ねにより、この行事に参加することが日加関係に貢献することも知られてきている結果といえましょう。



さて、本年の審査員賞は吉田大八監督の「羊の木」に、また来場した観客の投票による「小林観客賞」は斎藤工監督の「ブランク 13」に贈られたほか、これまでの映画祭に質の高い日本映画を提供し、トロントに何度も来訪された原田真人監督に特別賞が贈られました。結果として、トロントに来訪された3名の監督が全て何かの賞を受賞されましたが、これら3名の監督には上映後に観客からの質問に丁寧にお答えいただき、また上映前または上映後に観客からの要望に応じて写真撮影やサインをしていただくなど、日本の文化大使としても多いにご活躍頂きました。日本での御多忙なスケジュールの合間をぬっての短期間のトロント訪問であり、時差などでお疲れであろうと思われるのに、カナダのファンのためにこのように暖かく対応して頂き、本当に感謝の念に堪えません。



昨年、「海賊と呼ばれた男」の監督としてTIFFに来訪された山崎貴監督は、ナイアガラの滝を見学に行かれ、その時に撮影した滝の映像が今回のTJFFオープニング作品「Destiny: 鎌倉ものがたり」の中で使われました。今回来訪された3人の監督の中から、トロント市内の映像などを使った作品が生まれ、来年またTJFFに来てくださるといいなと期待しながら、早くも来年のTJFFを楽しみにしています。



オープニングでの山崎監督からのビデオメッセージ